



# と だ が し 戸田河岸について調べるには

〒335-0021 戸田市大字新曽1707 TEL442-2800 HP <https://library.toda.saitama.jp/>

荒川にある戸田の<sup>とせんぼ</sup>渡船場には<sup>かしぼ</sup>河岸場が併設されていました。戸田河岸は、安永元年(1772)幕府公認の河岸場となり、近隣の村々の年貢米や農産物を江戸へ送る拠点となっていました。

## 「戸田河岸」について調べるためのキーワード

戸田河岸、戸田渡船場、河岸場、荒川、戸田川、舟運、積問屋、回漕業、下戸田村  
オンライン目録(OPAC)、インターネット及び各種データベースを検索する際の参考にしてください。

## テーマの棚に行って本を探す

●図書館の本は一冊ずつ分類記号が付いています。棚の本は分類記号の番号順に並んでいます。「戸田河岸」に関する資料には、以下の分類記号が付いています。本を探すときの目安にしてください。

※これがすべてではありません。

### 「戸田河岸」に関する主な分類記号

213.4	埼玉県の歴史	291.0	埼玉県の地誌	517.2	河川誌	684	運河交通
-------	--------	-------	--------	-------	-----	-----	------

## 戸田市立図書館所蔵の戸田河岸関係資料

●「戸田河岸」について調べることができる当館資料は以下のとおりです。

### 【戸田市史】

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『戸田市史』 通史編 上	戸田市	1986	T213.4	中央2階・郷土戸田
	p.958-963「河岸と水運」 成立から発展まで江戸時代の戸田河岸の様子が分かります。			
『戸田市史』資料編 3	戸田市	1986	T213.4	中央2階・郷土戸田
	p.760-764「天保三年閏十一月 戸田川渡船場積問屋場所分帳」 旧下戸田村の名主であった武内家の古文書が活字で掲載されています。五人の積問屋が積荷を分担していた様子が分かります。			

## 【戸田市関係資料】

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『下戸田の民俗』 市史調査報告書第六集	戸田市	1980	T213.4	中央2階・郷土戸田
	p.65-68「交通交易」 戸田河岸の回漕業について業務内容を知ることができます。			
『戸田むかし史ある記』	戸田市	1982	T213.4	中央2階・郷土戸田
	p.11-13「荒川と戸田河岸」 戸田河岸について概要を知ることができます。			
『戸田河岸と荒川の舟運』 第19回特別展	戸田市立郷土博物館	2003	T069.9	中央2階・郷土戸田
	特別展示に使用された古文書などを写真で見ることができます。戸田河岸の歴史はもちろん、積問屋、積荷及び川船についても知ることができます。			
『研究紀要』18	戸田市立郷土博物館	2004	T069.6	中央2階・郷土戸田
	p.73-82「明治以降の戸田河岸と積問屋」 明治から昭和時代にかけての戸田河岸について知ることができます。			
『郷土とだ』創刊号	戸田市文化財研究会	1976	T709.1	中央2階・郷土戸田
	p.9-12「戸田河岸の盛衰」 戸田河岸についての概要を作者の体験や聞き書きも含めて知ることができます。			

## 【埼玉県関係資料】

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『埼玉大百科事典』3	埼玉新聞社	1981	T031	中央2階・郷土埼玉
	p.484「戸田河岸」 戸田河岸について概要を知ることができます。			
『角川日本地名大辞典』11 埼玉県	角川書店	1980	T291.0	中央2階・郷土埼玉
	p.593「戸田河岸」 戸田河岸について概要を知ることができます。			
『埼玉県の地名』 日本歴史地名大系 11	平凡社	1993	R213.4	中央2階・参考資料
	p.205-206「戸田河岸」 戸田河岸について概要を知ることができます。			
『蕨市の歴史』2	吉川弘文館	1967	T213.4	中央2階・郷土蕨
	p.763-783「戸田河岸」 戸田河岸に関する古文書の紹介と解説を見ることができます。			
『新編埼玉県史』 資料編 21	埼玉県	1982	T213.4	中央2階・郷土埼玉
	p.396-418「明治二〇年代荒川流域舟運の現況」 埼玉県立文書館所蔵「荒川流域河川調査書」が掲載されています。船数、輸出入貨物などを調べることができます。			
『武蔵国郡村誌』1*	埼玉県立図書館	1953	T291.3	中央2階・郷土埼玉
	p.239「舟車」 p.240「戸田河岸」 明治初期の河岸の位置、規模及び備えていた高瀬舟の数などが分かります。			

\*『武蔵国郡村誌』は、明治8年(1875)に各府県が作成し国に提出した地誌です。【『戸田市史』民俗編 p.1317「解説」】

## 【荒川に関する資料】

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『荒川』 人文Ⅱ	埼玉県	1988	T517.2	中央2階・郷土特集棚
	<p>p.171-188「荒川舟運と河岸」 p.189-200「河岸場の復元」</p> <p>埼玉県内の河岸の成立から衰退までを知ることができます。県で所蔵している古文書からの調査報告ですが、戸田河岸についての記述もあります。p.200には「明治末期から昭和初期に於ける川岸地区の家並み」図が掲載されています。</p>			
『荒川の水運』 歴史の道調査報告書第七集	埼玉県県政情報資料室	1987	T684	中央2階・郷土特集棚
	<p>p.14-15「戸田河岸」</p> <p>『武蔵国郡村誌』、「荒川流域河川調査書」に掲載されている記述の紹介です。戸田河岸の概要が分かります。</p>			
『利根川荒川事典』	国書刊行会	2004	T517.2	中央2階・郷土特集棚
	<p>p.255「戸田河岸」</p> <p>戸田河岸について概要を知ることができます。</p>			



今回、紹介した資料以外にも「戸田河岸」について記述されている資料を知っている方は、戸田市立図書館まで情報の提供を御願います。資料収集の参考にします。